

考える素材

脱原発金曜ウォーク 宇部 2012.08.12 から 第 519 回目

発行：いのち・未来うべ

宇部市立図書館 雑誌スポンサー 『世界』（岩波書店）を提供

連絡先：〒755-0029 山口県宇部市新天町 1 丁目 2-36 宇部市民活動センター「青空」

ブログ：<https://blog.goo.ne.jp/nonukes2013> 電話 080-6331-0960（安藤公門）

◎おすすめ 『世界』（岩波書店）8月号 後藤秀典論文 東京電力 11 年の
変節の実態を追う連載第 1 回。原発事故から 11 年が過ぎ、東京電力は、被災者へ人権感覚を
疑う罵詈雑言を投げています。公益事業を担う資格があるのでしょうか。必読です。

◎本の紹介 熊本一規編著『権利に基づく闘い』（詳しくは裏面に）

◎（報告）いのち・未来うべ 学習会 中川保雄著『放射線被曝の歴史』

7 月 16 日（土）午後 7 時～8 時 道雲美術館堂で行いました。

関連動画、高橋博子さん講演会「被ばくの戦後史」（たんぽぽ舎）を視聴しました

<https://www.youtube.com/watch?v=G3abtCi0ePg>

軍事目的のために行われる内部被曝の隠蔽、豊富な資料とレジュメが公開されています。

◎（報告）7 月 20 日昼休み 山口大学吉田キャンパスでチラシを配布しました。

<https://blog.goo.ne.jp/nonukes2013/e/41ee1be7ade1725f1ba2eea1943bac30>

◎【上関】上関町田ノ浦海岸で泳ごう！

7 月 23 日（土）午前 11 時～午後 2 時

◎ 平和フェスタ 2022 8 月 27 日（土）12 時半～16 時 宇部市文化会館大ホール

講演 永山茂樹氏 日本国憲法と平和 ウクライナ情勢から見える戦争のない平和な社会

◎金曜ウォーク 毎週金曜日午後 6 時 集合場所：新川橋（ヒストリア宇部横）

情報交換とアピール。気軽にご参加ください。全国の脱原発金曜行動とつながり、ともに声をあげましょう。

◎いのち・未来うべ 総会 2022 年 9 月 18 日午後 1 時半～

宇部市多世代ふれあいセンター（予定）

熊本一規編著『権利に基づく闘い』

山口県で上関原発建設を祝島漁民が釣り漁業で止めている

漁業権、廃棄物問題、財産権、卸売市場
「行政にお願いするから負けるのです」

「お願いされたら『ノー』というだけでよいのです」



熊本一規氏による本の案内

本書は、権力に抗するには、権利者が自らの権利に基づいて闘うことが必要であり、かつ有効であることを指摘するとともに、「権利に基づく闘いかた」を具体例に即して紹介したものです。

◎ 第1部では、山口県で中国電力がもくろんでいる上関原発建設を祝島漁民が釣り漁業で止めている事例を紹介しています。

1976年に鹿児島県志布志湾の住民運動に関わり始めて以来、半世紀近く埋立・ダム・原発等の事業を漁業権で止めることを研究してきましたが、漁民が日常的な漁業を営むことで事業を止められることは、これまでの研究が結実した成果であり、嬉しく思っています。

◎ 第2部では、漁業権と同様に長年取り組んできた廃棄物の分野において、射撃場の鉛汚染、産廃処分場、及び中間貯蔵施設の事例に即して「権利に基づく闘い」を紹介しています。

さらに、近年、他の分野からも依頼されてサポートを続けるうちに漁業権で事業を止める手法が他の分野にも応用できることが分かってきましたが、第3部で都市計画道路問題と卸売市場の廃止の事例に即して「権利に基づく闘い」を紹介しています。

私の研究は、漁民・住民が生活・生存を脅かす事業に対して自らの権利に基づいて闘うことをサポートする研究に収められているようです。

学生時代以来、「研究とは何か」、「学問とは何か」を追及してきた結果です。

緑風出版 2022年7月刊、A5判 276頁
2700円＋税

著者について

1949年 佐賀県小城市に生まれる。1973年 東京大学工学部都市工学科卒業。1980年 東京大学工系大学院博士課程修了(工学博士)。和光大学講師、横浜国立大学講師、カナダ・ヨーク大学客員研究員などを経て現在 明治学院大学教授。

ごみ・リサイクル問題で市民サイドからの政策批判・提言を行なうとともに、各地の埋立・ダム・原発等で漁民をサポートしている。専攻は、環境経済・環境政策・環境法規。

著書 『ごみ行政はどこが間違っているのか?』(合同出版、1999年)、『日本の循環型社会づくりはどこが間違っているのか?』(合同出版、2009年)、『海はだれのものか』(日本評論社、2010年)。『よみがえれ!清流球磨川』(共著、緑風出版、2011年)、『脱原発の経済学』(同、2011年)『電力改革と脱原発』(同、2014年)『電力改革の争点』(同、2017年)など多数。